

研究だより

令和6年11月15日
東久留米市立第十小学校
研究部

低学年では、「ICTを活用することによって、考えを共有し、気付きを広げようとする児童の育成」を目指して、教材・授業研究を行っています。今年度2回目となる研究授業は、10月31日（木）に2年2組で行いましたので、こちらでご報告いたします。

第2回研究授業 体育「フロアーボール」 2年2組

本単元では、「簡単な規則を工夫したり、攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。」というねらいに重点を置き、児童が主体的に思考したり話し合ったりできるよう、手立てを考えました。

研究主題に迫るための手立て①

動画・写真の活用

毎時間1チームだけ試合の様子を撮っておき、よい動きの部分を約1分に編集し、次時の導入で見せました。また、動画から見付けたよい動きをスクリーンショットし、コメントを付けて掲示しました。



◀「足がよく動いているね。」「友達の後ろにぐるっと回りこんでいるね。」など、よい動きについて話し合うことができました。

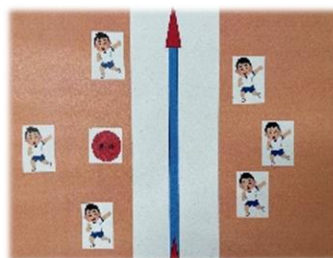
▶個人とチームの動きに分けて掲示されているので、児童はよい動きを意識し、主体的に取り組むことができました。



研究主題に迫るための手立て②

作戦ボードの活用

タブレットのアプリ（発表ノート）を活用して、チームメイトやコートを図式化した作戦ボードを作成しました。試合前や試合途中で、図を動かしたり書き加えたりしながら、より具体的な話し合いができるようにしました。



◀画面上がすっきりしているので、場所や動きのイメージの共有がしやすく、振り返りにも役立ちました。

▶「ウォール（壁）作戦をやってみようよ。」「だまし作戦はどう？」など、図を動かしながら話し合う姿が見られました。これまでに考えた作戦も活用できるのは、データが蓄積されているICTならではの利点でした。



講師の先生から

- ICTを活用したことにより、具体的な作戦を共有できていたので、忠実に作戦を実践していました。
- 試合を繰り返していくと、「作戦通りにやったのになぜ勝てないのだろう。」という疑問が子供たちから出てくることもあります。そこから試行錯誤し、作戦の合理性を高めていく過程こそが、体育における楽しさであり、大切な学びです。